

RPA技術者福岡で育成

日商エレ企業から受講者募る

双日システム開発の日商エレクトロニクス（東京・千代田）は、福岡市と大阪市で定型業務を自動化するRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の技術者を育成する。講座を開いて企業から受講者を受け入れるほか、技術者を選んで就職や転職したい人には無償で教えて企業に派遣する。地方銀行などで省人化の需要が高まっていることに対応する。



RPAの使い方や仕組みを学ぶ（福岡市）

しており、10月からは同市と大阪市で本格的に地方展開する。

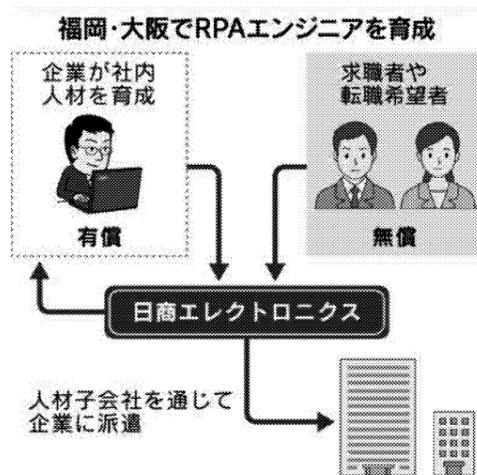
授業では日商エレの技術者が講師となり、業務自動化の事例を学んだり、実際にソフトを使って演習したりする。未経験者向けから資格取得を目指す講座まで3コースあり、期間は2、3日で受講料は20万～30万円。社員らをRPA技術者に育てたい企業から受講者を募るほか、求職中や転職を考える個人も受け入れる。受講後、日商エレで2～4カ月、実際のRPA業務に従事しても、人材派遣子会社の

エヌビーアイ（東京・江東）を通じて外部企業に派遣する。エヌビーアイに人材派遣登録すること条件に、受講料は免除する。結婚を機にキャリアを中絶した元技術者の再就職や、思うようなキャリアを歩めず転職を考えるエヌビーアイ（東京・江東）技術者の受講を想定して、地方では人手不足で深刻化するなか金融機関や物流会社などで単純業務を自動化するニーズも大きい。技術者派遣の引き合いは強いとみる。19年度中に200人のRPA技術者を育て、育成と派遣事業で1億円の英グループズーム社のRPAソフト。業務自動化対象を広げやすいことや、ロボットを一元管理できる安全性の面で強みがあるという。一方、使いこなすためには一定の習熟が必要のため、ソフト拡販と人材育成・派遣を組み合わせてサービス展開する。（今堀祥和）

転職希望者には無償で教え派遣

日商エレは2018年呼ぶRPA技術者育成講座12月に都内で「デジタル座」を開き、これまで10レイバーアカデミー」と0人超が参加した。地方福岡市でも試験的に実施

ではIT（情報技術）人材の不足が東京以上に深刻なことから、8月から福岡市でも試験的に実施



▼RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）人が担っていたパソコンの定型作業をソフトで自動化すること。請求書の内容と登録されたデータの差異を見つけたら、商品価格と見比べて大量のデータを自動で収集したりするなど幅広い業務が対象となる。人手不足や働き方改革で導入企業が急速に増えている一方で、コストに見

合う効果が得られないケースや、予期せぬ情報流出につながるリスクも指摘されている。矢野経済研究所（東京・中野）の調べではRPAの2018年度国内市場規模は約418億円、前年度比2.3倍に増えた。19年度以降も年率1～3割程度の成長が続く。22年度は約800億円に達する見通しだ。